

# 臨床腫瘍多職種研修会開催報告

山口大学医学部附属病院  
腫瘍センター事務局  
原田幸恵

令和4年11月17日(木)に、山口大学医学部附属病院腫瘍センター主催で、臨床腫瘍多職種研修会が、山口大学医学部附属病院オーデトリウムで開催されました。本研修は、院内のがん医療に携わる医師・薬剤師・看護師・MSW等の医療従事者を対象とした臨床腫瘍に関する研修会で、多職種39名の参加がありました。

本院腫瘍センターの井岡准教授の司会のもと、「もう一つの緩和ケアの場としての在宅」と題して、宇部協立病院副院長 立石 彰男先生にご講演いただきました。

研修会では、在宅緩和ケアの課題の多様化による、援助的コミュニケーションの基本、コミュニケーションの重要性等についてのお話や、よくある質問の受け答えについて、在宅緩和ケアの現場の様子を交えて講演があり、参加者からは、「医療者としての姿勢を見直させられる素晴らしい講演だった」、「死を間近に迫った人への接し方について学ぶことができた」、「よくある質問のQ&Aの受け答えに感銘を受けました」など多くの意見が寄せられました。

研修会後には、講師と参加者の間で活発な質疑応答もあり、大変有意義な研修会となりました。

腫瘍センターでは、これからも医療従事者に向けた様々な研修会を計画していきたいと思っておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

## 《研修会風景》

